

子どもと女性の健康相談室

73



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長
高橋 俊文氏

子どもは社会の宝と言われます。子どもが授かりにくい、産みにくい、育てにくい環境では、女性が生き生きと活躍することができません。一人

が福島医大に設置されました。県内の産婦人科・小児科医数は全国的に少ない状況でしたが、震災をきっかけにさらに悪化しました。県は、女性が安心して子育てできる環境を整備するため、産婦人科・小児科医の確保を最重要課題としてセンターの設立を決定しました。

センターのミッションは「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことです。産婦人科・小児科医の確保のためには、県内の医療を医師にとって魅力あるものにしていく必要があります。センターは、医大の産婦人科、小児科、小児外科と連携し、医師のリクルート、スキルアップ事業、医大での教育・

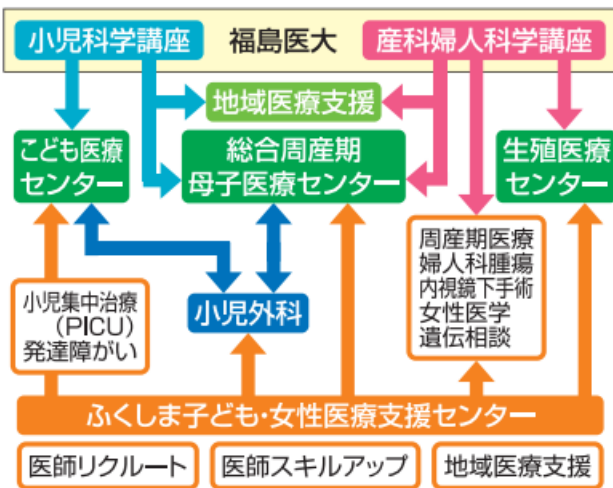
医療支援、地域医療支援を通じて医師の県内定着を支援しています。女性が子どもを安心して産み、育てるためには、女性のライフステージに

妊産婦の支援へ連携

の女性（十五歳から四十九歳）が一生の間に出産する平均の子どもの数を合計特殊出生率といいますが、福島県の合計特殊出生率は二〇〇五（平成十七）年までは全国五位以内でしたが、二〇一〇年以降は全国二十位前後と下降しています。

二〇一六年、県からの委託事業として、「ふくしま子ども・女性医療支援センター（センター）」

センターのこれから



合わせた医療サポートを充実させる必要があります。医大には生殖医療センター、総合周産期母子医療センター、こども医療センター、小児集中治療室（PICU）があります。生殖医療センターでは、子どもが授からない女性に高度不妊治療を提供しています。総合周産期母子医療センターでは、リスクの高い妊産婦と赤ちゃんに対応します。こども医療センターとPICUでは、赤ちゃんから小児までの疾患をカバーします。

今年度も、この連載コラムではわれわれのセンター所属の教員だけでなく、産婦人科、小児科医療の専門家の先生から、子どもと女性に関する身近な病気についてわかりやすく解説してもらいます。子どもは次世代を担う希望であり、福島県を元気にします。われわれのセンターでは、これからも子どもと女性の医療を支援していきます。

次回5月23日掲載